

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 6 年 4 月 調査結果 - -

( 平成 1 6 年 4 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 6 年 4 月 1 6 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 3 9 9 商工会議所が 2 5 5 8 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 0 卸売業 2 2 9  
小売業 7 3 1 サービス業 6 0 0

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成16年4月調査結果のポイント】

### 業況DIは依然、低水準も4カ月連続で改善

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.2）よりマイナス幅が3.4ポイント縮小して26.8となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小し、平成9年4月以来、7年ぶりにマイナス20台となった。

業種別の業況DIは、全業種でマイナス幅が縮小し、全産業合計の業況DIもマイナス幅が縮小した。中小企業の足元の景況の停滞感は薄れてきてはいるものの、依然DI値は低水準で、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、素材価格の高騰による仕入コストの上昇などの不安材料を懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、「4月に入り、公共事業などの仕事が入るようになったので、期待を持っている」（管工事）との声はあるものの、「景気回復との声が聞かれるが、建設業は公共事業予算の削減等によって、さらに厳しい状況が予想される」（一般工事）、「官公庁、民間とも発注は少なく、受注競争が激しく原価割れの状況の中で、危機的な状況」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「自動車およびIT関連等を中心に受注量の回復が続き、一部の企業はフル生産を行っている」（自動車、附属品）、「量的には拡大基調で設備投資も出てきている」（金物類）、「受注量は増加してきており、採算、仕入、雇用面も落ち着いてきている」（電子部品）といった声の一方、「原材料の鋼材の値上がりが続く、在庫も遅れ気味」（電気機器）と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「住宅減税による受注増加に期待している」（建築材料）、「なかなか業況回復に至っていないが、銀行の対応は良くなっている」（農畜産水産物）といった声の一方、「呉服業界にも若干ながら業況好転の兆しが見られるが、多くの企業では実感が得られていない」（衣服、日用品）との声や、「地域中小食品問屋は小売店の減少で全体的に悪い」（各種商品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「気温の高まりとともに春物衣料や、観光客の土産需要を反映し食料品が好調で、消費者心理の改善も感じられ、不振を脱した印象を受ける」（百貨店）との声や、「中古車、小型車の売れ行きは好調」（自動車）といった声の一方、「業種により売上、採算とも多少好転したが、全体的にいまだ持ち直し感は受けない」（商店街）、「購買意欲の減退は続いており、一つの催事が失敗すると月間での取り返しが不可能な状況が続いている」（百貨店）との声が寄せられている。

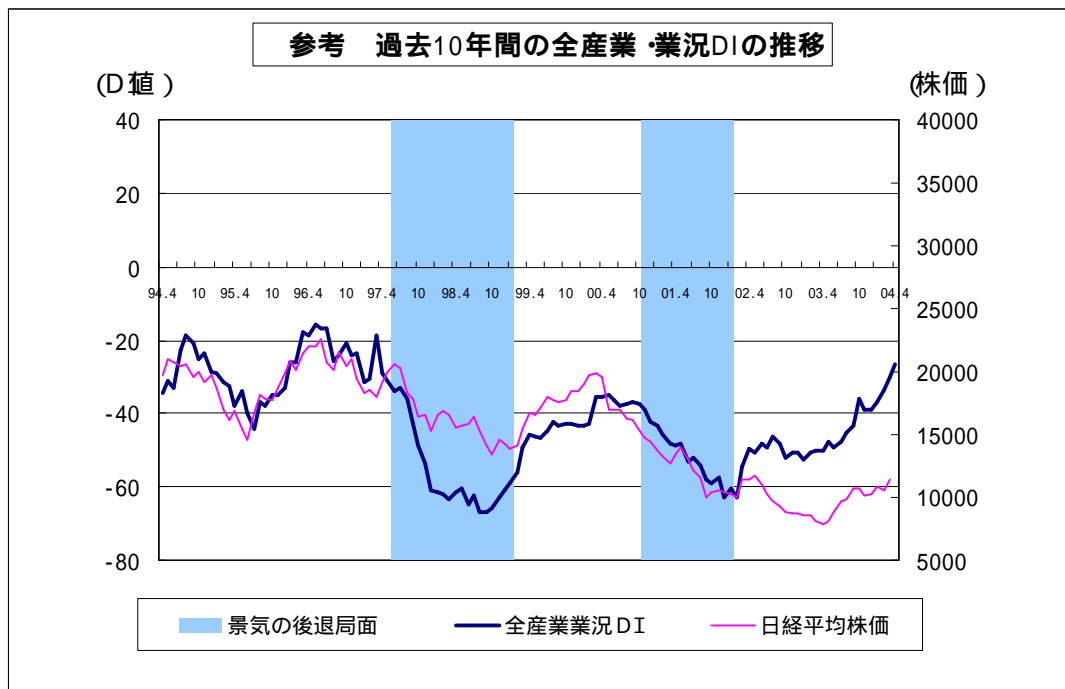
【サービス業】では、「年度も替わり、歓送迎会などが多くなり売上が増加」（一般飲食店）、「いくらか景況感回復の兆しが見えてきており、今後の動向が楽しみ」（すし店）といった声の一方、「客は少し増加傾向になってきているものの、ウイークデーの利用客数にバラつきがあり、まだまだ安定していない状況」（旅館）、「依然として売上減少気味で、業況悪化の店が多い」（食堂、レストラン）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く 3 業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の売上 D I は 2 . 4 ポイント縮小して 2 4 . 3 となり、5 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算 D I は 5 . 1 ポイント縮小して 2 6 . 3 となり、2 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月(5 月～ 7 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース)が 2 2 . 6 と、昨年同時期の先行き見通し( 4 4 . 6 )と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが依然として寄せられており、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.2）よりマイナス幅が3.4ポイント縮小して26.8となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

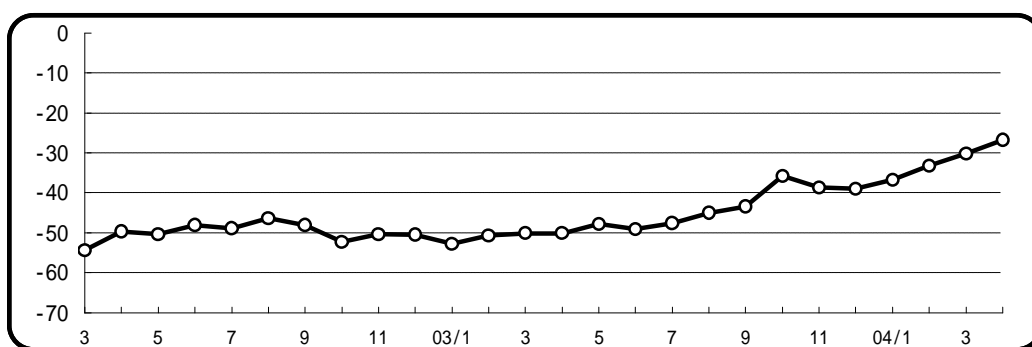
向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が22.6と、昨年同時期の先行き見通し（44.6）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	15年 11月	12月	16年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	38.7	39.0	36.8	33.3	30.2	26.8	22.6 (44.6)
建設	54.4	55.6	55.3	55.5	54.8	50.4	46.5 (62.9)
製造	23.0	18.9	21.5	18.1	14.9	14.6	14.1 (44.5)
卸売	40.7	53.7	36.1	30.4	31.3	26.8	15.9 (41.4)
小売	47.8	45.6	41.6	36.0	31.7	27.7	22.1 (38.1)
サービス	33.3	35.9	35.6	32.9	27.9	23.4	19.5 (41.7)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

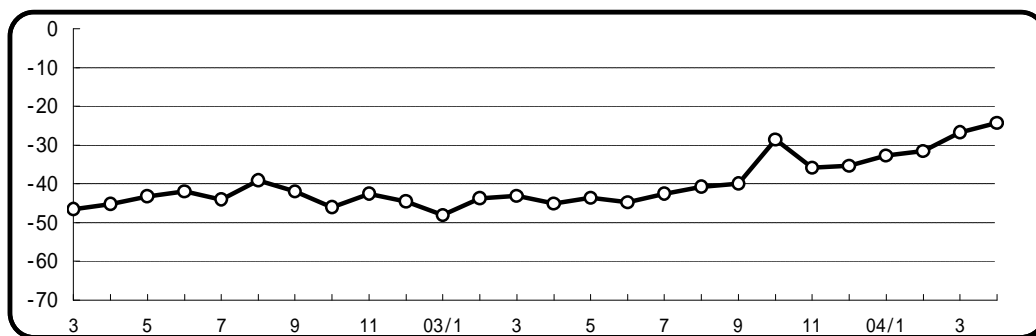
売上面では、D I 値のマイナス幅は卸売、サービスを除く3業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の売上D I は2.4ポイント縮小して 24.3となり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 17.3と、昨年同時期の先行き見通し( 36.3)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 11月	12月	1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	35.8	35.3	32.7	31.5	26.7	24.3	17.3 ( 36.3)
建設	47.4	48.2	51.8	46.4	49.3	46.7	41.0 ( 55.4)
製造	17.4	13.1	14.1	11.1	12.8	3.3	7.7 ( 34.8)
卸売	39.5	43.3	34.3	36.3	24.1	26.8	8.9 ( 30.8)
小売	51.2	45.7	37.9	35.9	30.0	29.5	16.0 ( 30.7)
サービス	27.7	34.9	32.8	36.2	23.3	24.8	16.8 ( 34.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

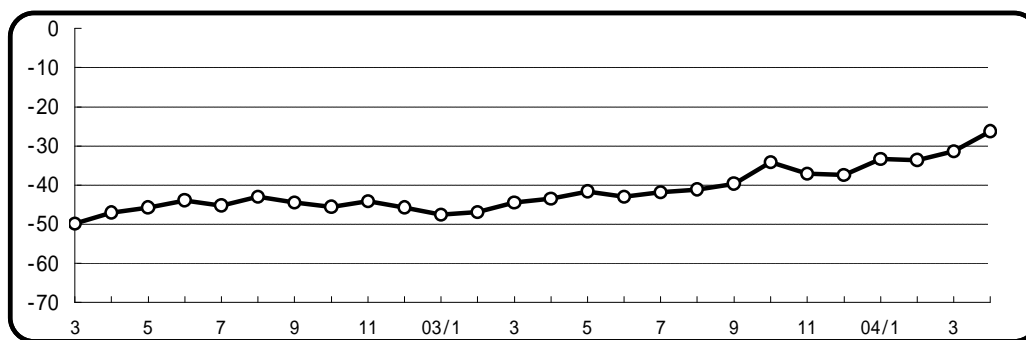
採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算D I は5.1ポイント縮小して 26.3 となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 22.7 と、昨年同時期の先行き見通し( 37.3 )に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年		16年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	37.1	37.4	33.3	33.6	31.4	26.3	22.7 ( 37.3)
建設	55.8	55.3	49.3	52.9	52.7	49.4	46.0 ( 56.7)
製造	25.3	27.3	23.2	24.3	24.9	17.6	19.2 ( 38.4)
卸売	35.2	43.9	32.5	28.6	28.3	20.4	13.4 ( 30.2)
小売	43.1	36.7	32.1	30.4	27.2	22.9	15.8 ( 28.5)
サービス	31.0	34.5	35.1	36.7	30.4	26.8	23.6 ( 37.2)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 11月	12月	16年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	27.4	28.3	25.9	26.7	26.5	21.1	20.0 ( 32.9)
建設	41.7	44.2	41.0	43.0	46.6	35.4	37.3 ( 48.1)
製造	21.7	23.5	20.1	22.5	21.9	21.0	17.2 ( 34.1)
卸売	22.9	28.4	22.0	23.9	22.6	19.2	14.7 ( 29.2)
小売	26.6	25.4	26.0	21.4	21.2	14.2	15.3 ( 25.7)
サービス	26.0	25.3	22.8	26.3	24.3	19.3	19.4 ( 31.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 11月	12月	16年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	3.2	4.4	7.6	9.7	10.8	13.3	11.2 ( 5.8)
建設	1.8	3.3	6.7	6.2	12.2	20.8	25.5 ( 4.4)
製造	14.3	16.2	20.0	23.9	26.2	30.3	21.4 ( 14.8)
卸売	8.6	9.3	3.6	6.6	10.3	9.6	10.3 ( 3.0)
小売	2.1	2.0	2.8	0.4	1.0	0.8	1.0 ( 0.6)
サービス	3.2	5.3	9.1	10.5	7.5	9.1	6.3 ( 4.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売を除く4業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも5カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 11月	12月	16年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	10.1	9.5	10.8	10.0	8.0	7.6	9.3 ( 14.2)
建設	23.4	21.5	26.6	27.5	26.8	30.8	29.0 ( 31.4)
製造	11.2	8.7	11.5	9.1	6.0	9.2	12.2 ( 17.6)
卸売	12.3	11.0	15.1	9.6	11.4	10.8	5.3 ( 10.7)
小売	5.8	5.8	5.5	4.1	2.7	0.2	2.3 ( 8.1)
サービス	3.7	6.3	4.0	6.6	2.3	1.0	2.7 ( 7.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、製造を除く 3 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 3 カ月連続で弱まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。



【平成16年4月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況の改善と景気の先行きに期待する声が寄せられている。建設、製造からは「民需に力強い回復感がある」(名古屋・建築工事)、「携帯電話の販売拡大が継続し、オリンピックを控えDVDレコーダーや大画面テレビも引き続き好調」(新井・電子部品製造)、「長年にわたり経営不振に陥っていた事業者にも、立ち直りの兆しが見えてきた」(松江・非鉄素形材製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「一般的に好転している」(姫路・衣服、日用品卸売)、「景気上昇感から、採算、資金繰り面で上向き傾向にある」(沼津・商店街)、「食品など一部商品で安価品ではなく、良い物、素材の良いものが売れるようになっている」(各務原・百貨店)、「デジタルAV商品が大きな伸び」(京都・百貨店)と、個人消費が回復傾向との声や、「1月以降やや好調で、同業者にも少し笑顔が戻ってきており、さらに好転することを望む」(市川・理容)、「業界全体で若干持ち直しの傾向が見えてきた」(境港・食堂、レストラン)といった声が寄せられている。

景況感格差

景気の先行きについて、改善の動きとの声の一方、いまだ明るい見通しを持ってないとの声も多く寄せられており、景況感の格差が広がっている。「リフォーム事業は好転傾向だが、公共事業、民間設備投資は、まだまだ減少傾向」(相馬・建築工事)、「新年度に入り公共事業が縮小し、大変厳しい」(守山・管工事)、「一部の業種では業況は好転とされているが、個人消費はまだまだ先行き不透明で、製造・販売業としては慎重な対応が必要」(草加・パン、菓子製造)、「各業種とも総じて売上高は減少して採算も良くなく、先行き不透明感は依然強い」(帯広・各種商品卸売)との声のほか、「地方経済は一向に明るい兆しが見えず空き店舗が埋まらない」(新宮・商店街)と、引き続き地域経済の厳しい状況を訴える声や、「荷動き、残高数量とも前年同月実績を割り込んでおり、相変わらず状況の好転は望めそうにない」(京都・倉庫)といった声が寄せられている。

仕入コスト上昇

今月も素材関連を中心に仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。「鋼材、ポリエチレン製品の仕入単価が25～30%の値上がり」(厚木・一般工事)、「鉄骨、鉄筋が5割以上、塩化ビニール等も大幅に値上がりし、厳しい状況が続いている」(京都・一般工事)、「鉄鋼製品の価格上昇による原価高を売価に転嫁できない」(安城・自動車、附属品製造)との声のほか、「産地での原木高と外材船運賃高騰により、各事業者とも厳しい操業状況」(徳島・製材木製品製造)、「国産大豆、米の不作により仕入単価は去年の倍」(大和・食料品製造)、「石油価格上昇のため、関連商品が値上げされている」(深谷・商店街)、「荷動きの低迷に加えて自動車の燃料である軽油が4月は3～4円の値上げ傾向にあり、採算悪化」(石岡・運輸)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
16年	2月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇
	3月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇
	4月	回復への動き	景況感格差	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況、採算D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「4月に入り、公共事業などの仕事が入るようになったので、期待を持っている」(管工事)「災害復旧工事が継続しており、例年に比べ順調な滑り出し」(一般工事)との声はあるものの、「県発注の工事等が減少しており、受注難にあえいでいる」(一般工事)「景気回復との声が聞かれるが、建設業は公共事業予算の削減等によって、さらに厳しい状況が予想される」(一般工事)「官公庁、民間とも発注は少なく、受注競争が激しく原価割れの状況の中で、危機的な状況」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「自動車およびIT関連等を中心に受注量の回復が続き、一部の企業はフル生産を行っている」(自動車、附属品)「量的には拡大基調で設備投資も出てきている」(金物類)「受注量は増加してきており、採算、仕入、雇用面も落ち着いてきている」(電子部品)といった声の一方、「表面的な単価下落でなくても仕様のコストアップになってしまうため実質単価は下落し、新規の仕事も軌道に乗せるまでの時間的コストの負担が大きい」(織物外衣)との声や、「原材料の鋼材の値上がりが続く、在庫も遅れ気味」(電気機器)と、仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「住宅減税による受注増加に期待している」(建築材料)「企業の接待交際費がバブル期の半分以下なので、なかなか業況回復に至っていないが、銀行の対応は良くなっている」(農畜産水産物)との声の一方、「呉服業界にも若干ながら業況好転の兆しが見られるが、多くの企業では実感が得られていない」(衣服、日用品)との声や、「地域中小食品問屋は小売店の減少で全体的に悪く、問屋の倒産も多いため、一次問屋からの取引保証金の要求が強くなってきている」(各種商品)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも5カ月連続でマイナス幅が縮小した。「気温の高まりとともに春物衣料や、観光客の土産需要を反映し食料品が好調で、消費者心理の改善も感じられ、不振を脱した印象を受ける」(百貨店)との声や、「中古車、小型車の売れ行きは好調」(自動車)といった声の一方、「業種により売上、採算とも多少好転したが、全体的にまだまだ持ち直し感を受けない」(商店街)「購買意欲の減退は続いており、一つの催事が失敗すると月間での取り返しが不可能で、希望的観測は全く通用しない厳しさが続いている」(百貨店)「全体的に消費者の購買力が低下傾向」(商店街)との声が寄せられている。
サービス	業況D Iは4カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「年度も替わり、歓送迎会などが多くなり売上が増加」(一般飲食店)「いくらか景況感回復の兆しが見えてきており、今後の動向が楽しみ」(すし店)「大手企業の設備投資工事、商業施設の新規オープンを控え、関係者の宿泊が多くまずまずの状況」(旅館)といった声の一方、「客は少し増加傾向になってきているものの、ウイークデーの利用客数にバラつきがあり、まだまだ安定していない状況」(旅館)「依然として売上減少気味で、業況悪化の店が多い」(食堂、レストラン)との声や、「トラックの排ガス規制強化で、ここ数年車両代替が今までになく多く必要となり、償却費の負担が収支を悪化させている」(運輸)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、北陸信越、九州を除く6ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも4カ月連続で縮小した。

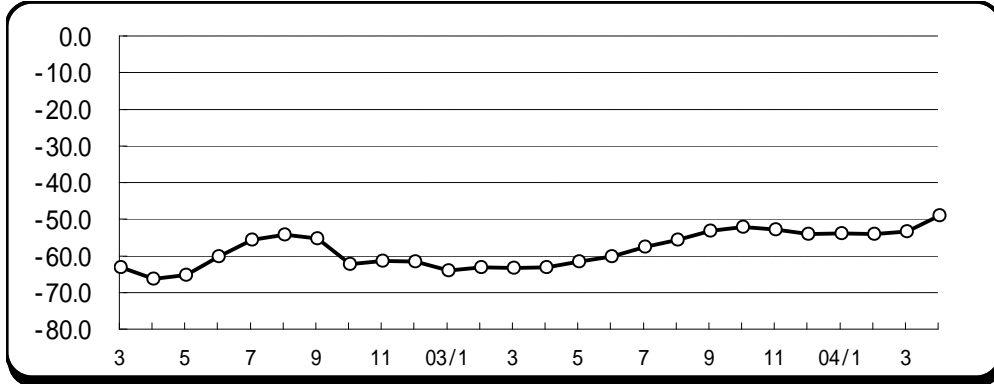
ブロック別の向こう3カ月(5月~7月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

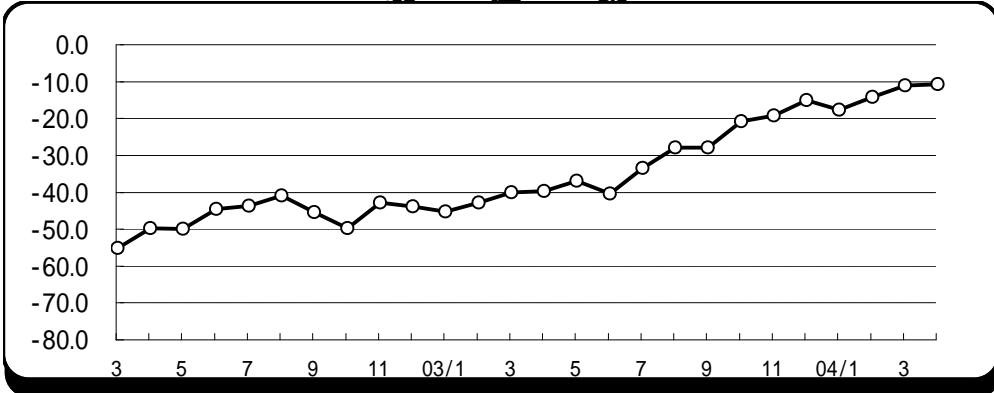
	15年 11月	12月	16年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全 国	38.7	39.0	36.8	33.3	30.2	26.8	22.6 ( 44.6)
北海道	37.7	33.6	29.7	30.1	36.2	23.4	20.6 ( 38.6)
東 北	41.8	48.9	43.7	36.7	33.5	36.7	30.7 ( 47.1)
北陸信越	35.7	37.0	31.8	28.3	24.6	28.5	21.8 ( 38.0)
関 東	35.7	33.9	31.1	28.5	27.5	20.6	15.0 ( 42.4)
東 海	36.1	32.1	35.6	27.7	31.6	27.1	28.4 ( 45.4)
近 畿	45.0	43.6	43.9	39.2	32.4	30.4	31.5 ( 45.4)
中 国	36.6	44.4	37.4	38.2	33.3	26.4	23.3 ( 51.7)
四 国	39.6	44.2	44.6	48.6	39.8	32.2	16.5 ( 52.3)
九 州	40.1	38.9	39.6	31.6	22.9	24.3	20.6 ( 46.3)

# 業況DI（前年同月比）の推移（全国）

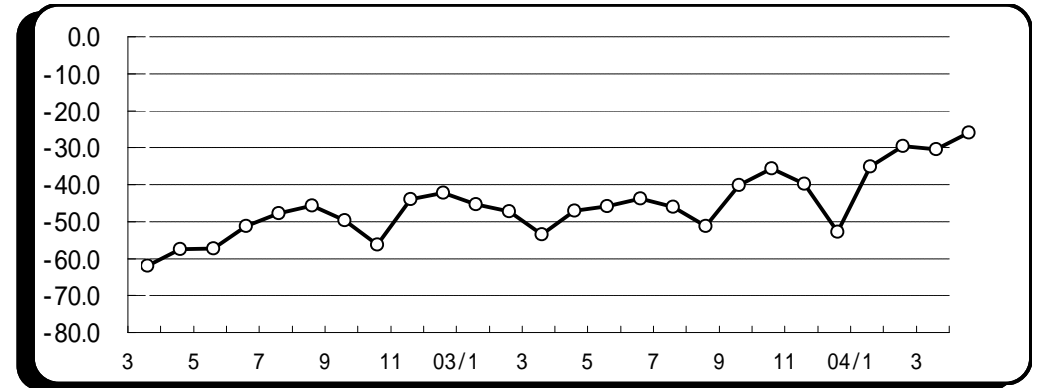
## 建設業



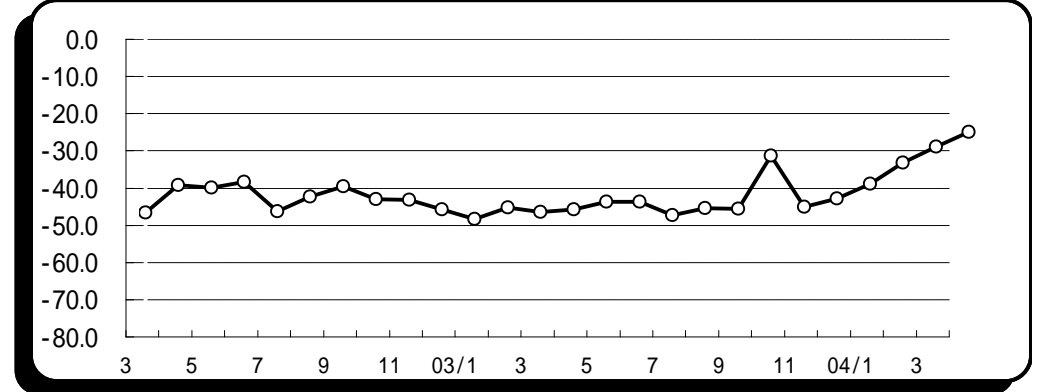
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

